

延享二、十二	宇佐郡	飢饉生活難
三、二	日田 大山ノ庄	
四、一	佐伯・八戸	助合米の儀に付
宝曆十三、十一	竹田	
文化元、二	両子手永	
三、七	大分郡 下光永	
四、五	同前	

郷土史によつてこれが内容を略記すると、寛文三年七月廿八日、日出領百姓が杵築領に遁入したのは、その数八千九百五十四人（速見郡史二百余人）が鷹山川原に逃げ来つたので杵築藩では男一人米一升、女一人七合五勺宛、及び衣類一枚を支給して、日出藩と交渉し、幕府にも伺つた上、九月三日双方立会、一人をも刑することのなきよう約して帰参せしめた。

延宝二年十月十五日中津侯の臣、原安太夫の食邑、豊前宇佐郡六郎丸の男女六十余人が検見の不公平を憤り、日出藩領山香郷唐川に走り来たので、日出藩奉行笠置九兵衛が之を説示して数日を経て皆歸つた。

元禄十年十一月十六日、山香郷七ヶ村と八坂村の百姓が貢税の事で、郡代笠置伊左衛門に恨があり、隣国所々に立退き領内騒動となつたので、藩方の直裁断となり、郡代並びに右七ヶ村庄屋五人に弁済使・棟梁百姓の十六人を加え、江戸に召出され、審議の上郡代は江戸にて切腹、弁済使二人は伊豆

大島に流され、庄屋五人は暫らく江戸で籠舎仰付られ、残り十四人は追放となつた。

享保元年秋、両子手永の惣百姓、出来通分に關し、其外願の件二七ヶ条を組立て、藩庁に願出たが受付ないので、両子の惣百姓は領分を立退き、嶋原領の下杵掛に入込み、其藩の役人に身を寄せた。そこで杵築藩より嶋原藩に交渉したところ、嶋原藩よりは、百姓の願意を聞届けるならば杵築藩に還すとの返事だつたので、杵築藩もせん方なくこれを承知し、両子の走り百姓は、杵掛滞十四日で夫々村々へ引取られた。享保十二年七月、下毛郡東屋形の百姓七十二人が天領の宇佐郡山口村・麻生村に逃げ込んで来たので、今津大庄屋敷田組の山下戸左衛門が麻生村に入り込み、やつと歸村することが出来た。然し屋形の庄屋は手鎖の刑に処せられた。

享保十三年四月廿九日、直入郡井手下村農民男女百三十六人が去つて下田北村に來たが、五月十七日に歸村した。

延享三年二月廿四日より三月朔日迄日田郡大山ノ庄、百姓困窮に付七八ヶ村より七百餘人出奔、筑後吉井町五ヶ寺に逗留、依て久留米藩より銀錢を賜ふた。

海部郡旧堅田郷を中心とする

庶民史料目録

匹田 泉

名目	年代	原本所在	備考
檉野永福庵の弥陀	不明(弘瀬氏調)	佐伯市、稲垣檉野	資卷六綴込
長瀬原の供養塔	文政五年	上堅田、岸河内	写

享保十一年南海部郡因尾村の走り百姓と逃散に就て

名目	年代	原本所在	備考
大島切支丹屋敷	天正年間	佐伯、大島、水	資六 畑
谷川ノ口塔	享保十九年	佐伯市、青山、谷川	庚申塔
上岡十三重塔の骨壺	鎌倉時代	上岡	供養塔
柏江俳句碑	寛保元年	柏江、江国寺	俳句記念塔
宗門書改書物の事	文化十二年	堅田、正田正己方	写綴、記録
龍護寺千手観音略記	明和八年	龍護寺	資八 " "
山口五穀神の由来	享保二年	青山、山口	資六、記録綴
龍護寺調査記	昭和三十一年	龍護寺	資八、 "
柏江江国寺由来記	明治三年	柏江江国寺	" " 写
平井の塔	永享七年	昭和村平井の庵	広瀬氏調、資七五輪塔
須平の塔	徳治三年	須平、山中	石造靈屋碑 資六
春江の墓	大永六年	門田	資七、石造碑
宮の浦天満社旧記	万治二年	米水津、宮ノ浦	塩川淑氏調、資六書冊、記録
八幡宮杖踊唱詞	不明	佐伯市、長谷、城村	資卷八綴込、記録
日待、二十三夜待、二十六夜待	徳川時代以前	堅田郷中の風俗	庚申待、甲子待、年中行事、資
少年敬神団供組	文化七年	下堅田、西野部落	再調査書記録、資卷九綴

名目	年代	原本所在	備考
寺島伊三郎信仰物語	明治四十年	佐伯市、長谷、上城	記録、物語、資卷八
寺島祐男信仰物語	昭和二十五年	" " "	" " 資卷六
元長のふ信仰物語がたり	二十七年	下堅田、西野	" " 資卷八
後藤芳右エ門信仰物語	十七年	青山、山口	" " "
郷土物語	三十年	高田正直方	" " 資卷七
足田万治氏の功德	二十年	下堅田、西野	記録、資卷七綴込
陸軍始御式図絵	明治三年	汐月	絵、資卷六
谷川村山口家の事	古代不詳	青山、谷川	記録、資卷六
通行差留之訴状書	文化十二年	下堅田、正田正己方	" 写、 "
津志河内十七軒株の家	古不詳	津志河内	" " 資卷八
埋れ木の事	大正元年	汐月	資卷七
下城谷組小組合	" 九年	上堅田、下城谷組	記録、資卷六
表彰状、賞状、感謝状	明治、大正、昭和	堅田郷内を主として	写、百三通、主として資卷八
三浦地方事務所長之感化	昭和二十四年一月	下堅田、汐月	記録、卷六
日録戦争出征者名簿	明治二十八年	堅田郷内役場	資卷六
堅田郷内よりの出征戦歿者	昭和二十五年	下堅田、正田泉方	靖国神関係書
出征者の戦歴履歴	明治三十八年	旧堅田郷内	日露役関係、資卷八

下城遺跡発掘	昭和二十五年	佐伯市、長谷、下城	資卷七
徳川將軍墓去通達書	天保十二年	下堅田、波越、 疋田正己方	資卷六、 織込、 古文書
阿蘇文書	南北朝時代	津久見市、 増村氏方	増村隆也、 調、 資卷六、 織込、 資卷六、 織込
佐伯の名称に就いて	昭和二十四年	下堅田、 疋田、 汐月、 疋田泉方	下堅田郷土村志
上堅田校編、郷土史	〃初年	上堅田小学校	資卷六、 織込、 写、 書冊
上堅田小学校沿革	〃十五年	〃	〃
大越清原家の事	明治十年	上堅田、 大越、 清原氏	〃 写、 記録
青山小学校沿革	昭和二十四年	青山小学校	資卷八、 記録、 写
堅田郷を中心とする庶民資料	〃二十五年	下堅田、 疋田泉方	庶民資料の目録 書(其の一)
大島浦の記	大正年中	鶴見村大島	資卷七、 書冊、 記録
疋田慶次郎翁履歴	昭和二十七年	下堅田、 西野、 疋田定一方	資卷八、 記録
黒木幸太郎翁の履歴	〃二十九年	佐伯市	資卷六、 〃
あやつり芝居黒木座	明治二十八年	上堅田、 大越	資卷六、 綴、 記録
池船橋と内田善太郎氏	〃三十年	〃 池船	〃上堅田校調、 記録
宇目の郷	景行天皇時代	重剛、 宇目郷	並河汪氏調、 資卷六
泥谷耕地整理	大正十五年	下堅田、 泥谷	資卷六
谷川村古蹟調(土地)	明治八年	佐伯市、 青山、 谷川	〃 書冊
谷川村内検地田方帳	天和三年	青山、 谷川	〃 〃

南海部郡旧堅田郷を中心とする庶民史料月録

天保調全国郡名	天保年代	下堅田、 波越、 疋田正己方	資卷六、 記録
岩田秀太郎氏の土地整理	昭和十七年	上堅田、 下城、 岩田氏方	資料書卷六
青山谷川の字	〃二十六年	青山、 谷川	資卷六
高田町の鏡	〃二十八年	西国東郡高田町	〃 新聞切抜
富尾神社の調本	天和年代以前	青山、 黒沢	〃 書冊、 記録
谷川村井田記念碑	大正五年	青山、 谷川	〃 碑石
尻高山遺聞	明治四十四年	西野、 疋田平次郎方	〃 記録
表口官山取分の事	〃四年	青山、 山口、 後藤庄三談	資卷八
黒沢小平山の小组合	年代不詳	青山、 黒沢	〃
塩月七軒組	〃	下堅田、 汐月	〃
波越の字	昭和十八年	〃	資卷七
八幡山発掘古土器	〃二十五年	疋田泉方	〃 古土器
家光より毛利氏に遺せる書状	徳川時代初期	津久見市、 西郷氏	〃 写、 古文書
鉄炮獵師証文	文化十二年	下堅田、 波越、 疋田正己方	資卷六、 記録
人別請手形之事	天保十年	〃	〃
湯本氏系図	明和年中	佐伯、 上越、 光久寺	資卷七、 系譜
高瀬氏系図及び勤仕録	徳川時代末頃	佐伯、 山際、 高瀬氏	資卷八、 〃
天野氏系図	年代不詳	昭和村、 尺間山	資卷六、 〃

(未完) 右表中「資卷六、七、八」等とあるは郷土史料資料六の巻、七の巻、八の巻の略。